

ブロック別の動向

前月と比べたDI値の動き



改善



ほぼ横ばい



悪化



北海道

北海道は、改善。小売業では、堅調なインバウンド需要や歓送迎会需要の恩恵を受け、百貨店や商店街などで売上が改善した。製造業では、小売業やサービス業からの引き合いが増加した飲食料品関係を中心に、売上・採算が改善した。一方、食品加工の事業者からは、円安の伸長に伴う原材料価格や燃料価格の上昇により、収益が圧迫されている、という厳しい声も聞かれた。



東北

東北は、悪化。サービス業では、燃料価格高騰の影響を強く受けた、運送関係を中心に売上・採算が悪化した。小売業でも、輸送コストや仕入コストが増加する中、今後の先行き不安による消費マインドの低下が重なり、幅広い業態の店舗で売上・採算が悪化した。百貨店からは、配送料の上昇分を販売価格へ転嫁したいが、顧客の買い控えを懸念し、転嫁できていない状況である、という声が聞かれた。



北陸信越

北陸信越は、悪化。建設業では、一定の除雪需要があるものの、燃料価格や資材価格の高騰により工事の延期・見送りなどが生じ、売上・採算が悪化した。製造業でも、中東情勢の緊迫化に伴う輸出減少や燃料価格の高騰を受け、機械器具関係や鉄鋼関係で売上・採算が悪化した。石川県珠洲市の事業者からは、災害復旧に係る費用がかさみ、度重なる価格転嫁を行っても、コスト上昇分をカバーしきれていない、という声が聞かれた。



関東

関東は、悪化。製造業では、中東情勢の緊迫化の影響を受けた機械器具関係や、住宅工事の不振により引き合いが減少した木材関係・家具関係などで売上が悪化した。卸売業でも、建設業や製造業からの引き合いが減少した建築金属材料関係を中心に、売上が悪化した。包装関係の卸売業者からは、取扱商品の8割が石油製品であり、今後さらに石油価格が高騰した場合には業界の混乱は避けられない、という声が聞かれた。



東海

東海は、悪化。建設業では、公共工事の一服に、人手不足の深刻化や資材価格の高騰が重なり、売上・採算が悪化した。事業者からは、例年、公共工事は年度末に減少した後、年度初めに回復する傾向があるものの、今年は4月以降も回復する兆しが見えておらず、先行きは不透明である、という声が聞かれた。製造業では、中東向け自動車の減産などにより、機械器具関係を中心に売上・採算が悪化した。



関西

関西は、悪化。サービス業では、燃料価格高騰の影響を受けた運送関係や、物価高による消費者の節約志向の高まりで来店客数が減少した飲食関係などで業況が悪化した。卸売業でも、サービス業からの引き合い減少を受けた飲食料品関係を中心に、売上・採算が悪化した。飲食店からは、これからは店舗近くの公園が花見の時期を迎えるため、来店客数の増加を期待している、という声も聞かれた。